

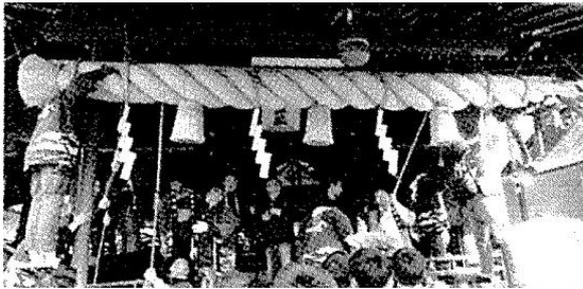
## ■自由投稿

### 「しめ縄の話 あれこれ」

佐和田 丸（10期）



写真は、大阪市生野区にある彌榮（やえい）神社である。私のふるさと飯南町産の大しめなわが飾られている。これが縁で、崇敬社のひとつに加えて加護をお願いしている。



神祖・須佐之男命を文禄年間に熊野神社（旧出雲国意宇郡）より分霊奉還したのが始まりと旧記にある。それ故に、近畿在住の松江関係者にとっては、崇敬社にくわえたい神社に推奨したい。

場所は、環状線鶴橋駅から約10分、交通至便の場所にある。

大しめ縄は、出雲大社と同じく左元となっている。一般の神社と異なり、左元を上位とする。

写真は、地元町から送られてきたPR冊子「島根県飯南町と大しめ縄」から転載したもの。神社HPからも見られるが、大しめなわが少し見えにくいので、同冊子から借用した。

また、同神社には、今は各地の神社でよく見かける普通の狛犬がおかれているが、創建当時には、神社正面におかされていたと思われる構え型「出雲狛犬」が境内の側参道に鎮座している。これも一見の価値がある。

考えてみれば、わざわざ「出雲狛犬」と銘打った狛犬が存在することは私ども出雲関係者にとって名誉なことである。現在は来待石で山陰地方でつくられていると何かで読んだ。

来待石は細工しやすいが、長期の保存には問題点があるようで、出雲狛犬は絶滅危惧種と言えなくもない。

写真の「出雲狛犬」は同神社のHPから転載した。今にも跳びかかる姿が特徴的である。同神社の詳細はHPで。



出雲狛犬（今にも跳びかかる「出雲構え」）

そもそも、しめ縄とは何か？ しめ縄とは、神前や神域など清純な場所を示すため、しめ縄を張り巡らせることによって境界を示し、出入りを禁止することを表している。

特に神事においては神様が占める神聖な場所を区画するために用いられた。また、しめ縄には「注連縄・一五三縄・七五三縄・標縄・締縄」など、様々な表記がある。漢字で書く場合、一般的には「注連縄」という文字が用いられるが、「一五三」「七五三」は縄から垂らすわらの節の数から、「締縄」や「標縄」は音や意味から漢字をあてたものだと考えられている。

「身近なしめ縄」・・・私たちはいろいろな場所なしめ縄をかけている。神社で見かけるしめ縄は、神様を迎えるたびに、祭りのたびに張り巡らされていたものが、いつのまにか常に張られるようになり、神様の居場所をあらわすものへと変化した。しめ縄には明確な規定がないため、神社によって独自の形式のしめ縄が使われている。

力士がまわしにつけているのもしめ縄である。横綱は、力士を代表するものと、同時に神の領域にいるものとして神格化されたことから、番付最高位の横綱だけが、まわしに「横綱」をつけることが許されている。お正月に、家の玄関先で飾られる「しめ飾り」もしめ縄から派生したもので、「としがみ様（新しい年の福を授ける神様）」を迎える準備として、古くから日本人のお正月になくしてはならない存在となっている。

「しめ縄の由来」・・・しめ縄の起源は諸説ある。一般的に知られているのは、「古事記」「日本書紀」に登場する「天の岩戸伝説」である。

天照大御神が天の岩戸から出て、世界が再び明るさを取り戻した時、二度と岩戸にもどらないよう、岩戸に「尻久米縄（しりくめなわ）」と呼ばれる縄を張った。これがしめ縄の始まりといわれている。

そのほか、「稲作信仰」「中国伝来」などの説もある。

「稲作信仰説」・・・その昔、縄の材料は刈り取って干した稲わら、または麻であった。しめ縄の形が、二匹の蛇が絡み合う姿を連想させることから、しめ縄には五穀豊穡の願いが込められていると考えられており、稲作文化と関連の深い風習ではないかと言われている。

「中国伝來說」・・・「注連縄」という漢字表記にもしめ縄の起源が関係していると考えられている。「注連」とは中国に古くからある縄の呼び名で、人がなくなった後、家の入口に清めの水を注いだ縄を連ねて張る風習から、中国では、その縄を「注連」と呼んでいる。死者の霊魂が再び家に戻ってこないようにとの意味を持っており、「注連」が日本のしめ縄と同様に結界の役目を果たしていることから、日本のしめ縄のルーツは、この「注連」にあるとも考えられている。

出雲大社本殿の横にある「神楽殿」は、本来、出雲大社宮司である千家国造家の大広間として使用されており、「風調館」と呼ばれていた。昭和56年に出雲大社教が特立100年を迎えた際に、規模を拡張し現在の神楽殿として建て替えられた。その大広間は270畳の広さを誇り、教会ならともかく神社建築には珍しく正面の破風の装飾にステンドグラスが用いられている。

先日、コンビニに立ち寄ったら、恵方巻きずしに並んで、恵方スイーツのカタログがおいてあった。出雲大社は、時代を先取りした存在であったと言えるかもしれない。神楽殿の大しめ縄を見学された後は、ステンドグラスの鑑賞もお忘れなく。

正面に掛けられている大しめ縄の長さは約13m、重さ5tにもおよび、この大しめ縄は数年に一度、新しいものと掛け替えられる。そして冒頭に記したように、一般の神社が神様に向かって右を上位、左を下位としていることからしめ縄も右がない始めで、左がない終わりだが、出雲大社のしめ縄をよくみると、逆になっている。

どうして出雲大社は左元なのか。古来より他の神社とは反対に左を上位、右を下位としていた。また、江戸時代の祭事の記録では、神様へお供え物を進める際、上位のお供え物を向かって左、下位を右へ進める作法となっている。出雲大社で左元のしめ縄がかけられているのは、これらの理由が考えられると思われる。他説もある。

飯南町の大しめ縄は、国内はもとより遠く外国まで奉納されている。関西で主なところは、①彌榮神社（大阪市）②阪神分祠（尼崎市）③京都分院（亀岡市）④近江分院（大津市）⑤鹿島神社（加古川市）⑥熊野本宮大社（田辺市）など。関東で主なところは、①常陸国出雲大社（茨城県笠間市）②大畑香取神

社（埼玉県春日部）③ 秩父宮ラグビー場（東京都港区）④アクアシティお台場神社（同）⑤相模分祠（泰野市）⑥六所神社（大磯町）などである。

加護を求めて参拝される時は、大しめ縄が左上位になっていることに注視されるとともに、大しめ縄の聖地飯南町のことを思いを馳せていただければ幸いである。

（参考文献）「島根県飯南町と大しめ縄」他。



飯南町大しめ縄創作館